狐狸庵閑話

狐狸庵閑話　巻之貳

現代の快人物

遠藤周作

桃源社開板

現代の快人物　狐狸庵閑話巻之貳
昭和四十二年五月三十日　発行©
定価　千三百円《検印省略》
著　者　遠藤周作
発行者　矢貴東司
印刷者　奥村正雄
発行所　株式会社　桃源社
東京都中央区日本橋蠣殻町一丁目
十二番地　電話(666)四〇〇一、二番

「狐狸庵閑話巻之貳」之序

古語に曰く丈夫は齢五十にして色を好むこと未だ解らざるにと。狐狸庵先生頽齢頑禿の翁となり給ひて、親しく花柳の巷に遊び、上は揺錢樹を散す陀々羅遊より、下は小合半酒を飲む困々愉快まで究め、其情に通じ其義理に粋く、此首に遊び彼所に浮れ、三寸の胸に浮世の人情を蔵め、一寸の眼に天下の形勢を窺ふ。然り而して古を考へ今を按じ、風を觀俗を察し、結局は人間萬事馬鹿の世の中也と豁然として悟入せるに、古諺に再た謂ふ馬鹿につける薬なしと。夫退いて惟るに、虚と實の内外を五味八珍に索混て、

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

滑稽稿と鶏出したる本篇こそは、奇絶妙々天下の珍、古今百馬鹿必ず求て坐右暫時も欠可からざる特効薬なれば、馬鹿につけるこの薬、文明開化てれゞいじよんの告條めかして「飲ンデマスカ」と、序文に換へて述る者は

昭和丁未の歳元旦

滋蔓子亭主人識

目次

キャバレー界の風雲児・福富太郎 11
星占いの予言者・トービス星図（せいと） 31
舞踊界の異端児・土方巽 51
催眠術の教祖・田村霊祥 71
爬虫類マニア・高田栄一 91
刺青浮世絵師・北島秀松 111
異色の画家・交楽竜弾 131

ストリップ宗教・神田五朗　151
真向法代表・長井泂　171
巨人軍応援団長・関矢文栄　191
体当りヌード・豊原路子　211
？？？？？・狐狸庵山人　231

写真　田沼武能

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

現代の快人物

キャバレー界の風雲児・福富太郎

我輩のようなグータラ男は世のため、人のため何の役に立つこともせず、一日中、布団のなかにワラジ虫のように丸くなって鼻毛ひきぬきながら、もし自分が一匹のノミであって女の背中にまぎれこんだら甚だ愉快であろうなどと言うようなことを黄昏(たそがれ)ちかくまで迷想するのを理想生活と考えるのであるが、読者の中にも私と同じようなグータラ男がきっといるにちがいない。

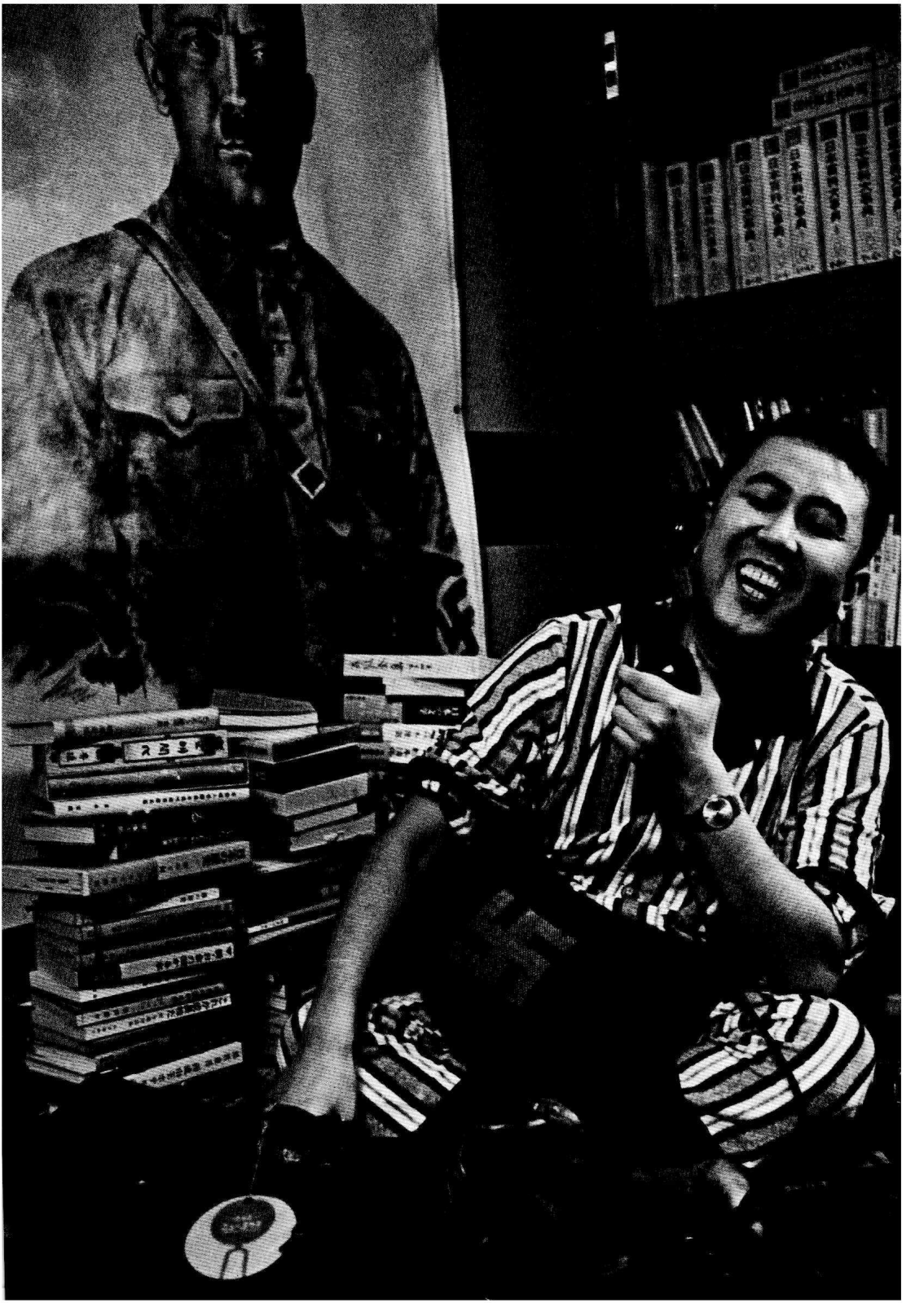
そこで我輩は日本中のグータラ生活愛好者の代表として、非グータラ人間をたずね、その生活と意見とを聞いてまわることにした。非グータラ人間とは我輩と違って仕事に夢中、研究に没頭、金儲けに身を賭けられるふしぎな人種たちのことである。言葉を変えていえばなにかに憑(つ)か

れた「熱中人種」のことである。

人生どうせ幻のごとし。どうあろうと結局は同じだんべいというのがグータラ生活者の口実であるが、熱中人種は蟻のようにセッセと動きまわる。どっちの生き方が正しいか、グータラ人生がよいか、熱中人生が勝るか、その結論はこのシリーズの最終回で我輩だしてみたいと考える。

御紹介するが我輩の助手はOと言う。オカッパ頭のロイド眼鏡、大人か子供かわからんような妙ちきりんな顔をした彼は私ほどグータラではないが、さりとて熱中人間でもない。もちろん女好きであることを私は謹んで保証する。

第一回目に訪問する熱中人間は新宿のキャバレーのボーイから身を起し、機智縦横、今や三十四歳の身でありながら二十億の資産をもち、池



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com